

◆授業のポイント◆

- ・ 対象を比較・分析して読む力を高める指導の工夫
- ・ 読み取った内容をもとに自分の感想を文章にまとめさせる指導の工夫

国語科学習指導案

学 級 2年4組 (男子19名 女子17名 計36名)
 場 所 2年4組教室 (2年棟3階)
 授業者 教 諭 姥 英 一 郎

1 単元 日本の文化に触れる (全8時間)

2 題材 「短歌の世界」

3 本時の実際 (2/8)

(1) 目 標

- ・ 二首の作品を比較して、作品に込められた作者の思いを読み取り、自分の感想をまとめる。

(2) 展 開

過程	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点◎評価※授業のポイントについて
導 入	1 前時の学習内容を想起する。	2 一 斉 3 一 斉	○ 前時に学習した短歌を音読させる。 ○ 学習目標の提示を行い、学習の進め方を確認する。 ① 正岡子規の二首の短歌を音読する。 ② 「いちはつの～」について描かれている情景を読み取る。 ③ 「くれなるの～」について描かれている情景を読み取る。 ④ 二首の短歌を比較し、作者の思いを考る。 ⑤ 作品についての感想をまとめる。
	2 本時の学習内容と学習の進め方を確認する。 正岡子規の二首の短歌を読み比べ、作品に込められた作者の思いを読み取り、自分なりの感想をまとめよう。		
展 開	3 正岡子規の二首の短歌を音読する。	5 一 斉 個	○ 一斉に音読させる場面では範読をする。 ○ 個人で音読させる場面では、何回か繰り返し音読させる。 ○ 情景を読み取らせる際、次のポイントを確認させる。 ※比較・分析の際の留意点 ① 季節 ② 作者の視線 ③ 注目する言葉 グループで確認したことを代表者に発表させ、「春」という季節のイメージを考えさせたり、咲いている花、これから咲こうとする花を見ていることを確認させる。 ○ 4で挙げられた言葉に注目させる。 (注目させたい言葉) 「今年ばかりの」「春ゆかんとす」 「くれなるの」「伸びたる」「やはらかに」 ○ 作者の状況や思いを確認させる。 ※モデル文を提示し、まとめ方の確認をする。 ○ 模範となる生徒を選出し、発表させる。 [例えば次のようにまとめることができる] 「いちはつの～」と「くれなるの～」を読み比べると、病床に伏した作者が、命の営みを感じたり、自然の移り変わりを感じたりしている姿が伝わってくる。私は、この二首を詠み、必ず終わりゆく命だからこそ、今を精一杯生きようという思いを強くもつことができた。
	4 「いちはつの～」と「くれなるの」に描かれている情景を読み取る。	8 個 グループ	
	5 それぞれの「花」を見ている正岡子規がそれぞれ何を感じているかを話し合う。	12 グループ	
開	6 話し合った内容を発表する。	5 一 斉	○ 模範となる生徒を選出し、発表させる。
	7 二首を読み比べての感想を文章にまとめる。	10 個	
終 末	8 まとめた感想を発表する。	3 一 斉	○ 本時の授業を振り返らせ、次時への見通しをもたせる。
	9 本時の学習を振り返る。	2 一 斉	
	10 次時の確認をする。		

(3) 評 価

- ・ 二首の短歌を比較しながら、作品に込められた作者の思いを読み取ることができたか。
- ・ 読み取ったことをもとに、作品に対する自分の感想をまとめることができたか。